資料 160-3

第 160 回　CiecAP 運営委員会　国際会議補助報告書
2007 年 2 月 21 日

資料 No.	＜ＳＣ　３Ｄ　関係＞国際会議報告書
160-3／SC3D	SC3D「電子部品のデータ要素」ベルリン会議報告書 20070214-20070216
資料 No.	＜ＴＣ４７関係＞国際会議報告書
160-3／TC47-①	TC47「半導体ベアダイプロジェクト 」ブリュッセル会議出席報告　2007.1.15-16
資料 No.	＜ＳＣ　62A　関係＞国際会議報告書
160-3／SC62A-①	SC62A/WG20「環境保護」エアランゲン会議報告書 20061212-20061214
資料 No.	＜ＳＣ　62D　関係＞国際会議報告書
160-3／SC62D-①	SC62JWG8「体温計」リマソール会議報告書 20061108-20061111
資料 No.	＜TC80　関係＞国際会議報告書
160-3／TC80-①	TC80/WG1「レーダ・プロッティング装置」ロンドン会議報告書 20070122-20070124
資料 No.	＜ＴＣ１００／ＴＡ１関係＞国際会議報告書
160-3／TC100/TA1-①	PT62487 (TV 平均消費電力測定法 PJ)会議報告書 20070111
資料 No.	＜ＴＣ１００／ＴＡ５関係＞国際会議報告書
160-3／TC100/TA5-①	MT60728-13 (放送信号伝送用 FTTH のシステム及び測定方法)フランクフルト会議報告書 20070122－20070123
資料 No.	＜ＴＣ１１０関係＞国際会議報告書
160-3／TC110-①	TC110＆WG2,4,5「ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲデバイス／LCD，PDP，OLED」大津会議報告 20061203-20061205（日本開催）

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：160-3／SC3D-①
IEC 活動推進委員会　御中

提出日: 2007 年 2 月 17 日

（報告者記載）整理番号：H18SC3D③

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：　南野　典子　　報告書作成者氏名：　南野　典子　（会社名）（株）東芝

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC3D (半角)
SC3D/WG2	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
SC3D/WG2-SC65E/	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☒その他	名　称 (日本語)	電子部品のデータ要素
WG11 JWG	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催　☒同時開催	

開　催　期　日	2007 年 2 月 14 日 ～ 2007 年 2 月 16 日	
開　催　場　所	（国名）ドイツ	（都市名）ミュンヘン
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	D. Radley/A. Dijkstra	幹事国　オランダ
参　加　国及び 参　加　人　数	５ヶ国、主な国名 イギリス、オランダ、ドイツ、オーストリア、日本、参加人数（8）	
日　本　人 出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○南野 典子	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

【背景・目的】欧米及び日本での電子カタログ辞書データモデルとして広く参照されている国際標準規格（ISO13584-IEC61360 シリーズ）について審議を行う。特に、IEC61360-1（辞書作成のためのルール）の Edition3 の CD 案に対するコメントレゾリューション、辞書のメンテナンスを行うＶＴ（Validation Team）運用開始後発の CR（Change Request）について、メンテナンスプロシージャについてを中心に議論を行った。また、SC65E との JWG を 14 日午後に開催し、SC65E 提案の計測器関連の辞書提案について議論を行った。

【成果・問題点】

１．　IEC61360-1 Edition3

日本からのコメントはほぼ採用され、7 月 CDV に向けてドキュメントの修正を行うことで合意した。

２．　CR00007、CR00009

TC3 下の規格をデータベース化し、共通のデータベースプロシージャを用いて保守を行うことになり、提案は、通常の規格化手順（Extended procedure）を用いるか、簡易手順（Normal procedure）を用いるかを決める評価段階の後、承認段階に回る。CR00007 は 4 件のプロパティ修正提案であり現在、簡易化手順で承認段階にある。CR00009 は、ドイツからの 100 件の設置環境プロパティに関する提案で、現在、評価段階。今回の会議ではモデル化手法に問題があることを日本から指摘し、認識が共有された。今後、問題解決に向けて検討を行う。また、辞書全般のプロパティの定義が Direcives2 で参照されている規格のルールに合っていないため、今後、改善に向けて、辞書定義のルール確認を行い、ステートメントを作成した。

３．　IEC61360 の詳細データベースプロシージャについて

共通のデータベースプロシージャとは別に、規格ごとに詳細データベースプロシージャを INF として発行する。個々の提案識別に正式 ID、バージョンを利用する点を日本から問題点として提起した。今回、改善策について話し合ったが、提案した改善策は受け入れられず、当面は現状の方式で保守を行うことになった。ただし、今後も改善策については検討を継続する。

４．　辞書（データベース）の出力形式について

辞書がデータベース化され、規格で定められている出力形式（ISO10303-21）はユーザにとって判読が難しいため、規格ではない HTML 表形式で行われていた。今後は、IEC61360 とデータモデルを共有する ISO13584 の分冊として CD/TS が承認された ISO13584-35（日本から提案）形式での出力も用意することになった。形式がシンプル、かつ共通のものになることにより、辞書の再利用や判読が便利になる。

５．SC65E からの計測器辞書提案

SC65E で作成している用語を、IEC61360 の辞書とするために必要な作業を継続している。IEC61360 の辞書とするにあたって、データモデル上の変更要求が何点か挙げられ議論した。データモデルに関してはダブルロゴ規格として開発している ISO TC184/SC4/WG2 側で現在、改定作業中であるため、IEC として許容可能な点については、ISO 側に要求を上げることになった。CR として審議するにはまだ時間がかかりそうである。

次回の SC3D/WG 会議は、2007 年 7 月上旬に鹿児島県指宿市で開催される。同時に、ISO/TC184/SC4/WG2 との JWG、また JTC1/SC32/WG2（メタデータ）との JWG も開催予定。以上。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：160-3／TC47-①（事務局記入）
IEC 活動推進委員会　御中

提出日: 2007年 2月 6日

（報告者記載）整理番号：H18TC47⑧

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：田中政樹　報告書作成者氏名：永広祐一　（会社名）（株）東芝

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC47/PT62258 (半角)
TC47/PT62258	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☒PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	半導体ベアダイプロジェクト
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開　催　期　日	2007年 1月 15日 ～ 2007年 1月 16日		
開　催　場　所	（国名）ベルギー	（都市名）ブリュッセル	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	J.Walbert(JEDEC)	幹事国　USA	
参　加　国及び 参　加　人　数	4ヶ国、主な国名 英(D.Radley,G.Thompson)、米(J.Walbert)、独(G.meyer-berg)、参加人数（5）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 永広祐一 （㈱ 東芝）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

１．背景：　ベアダイに関するＩＥＣ規格を作成するプロジェクトチームが２００１年１月に承認され、欧州のベアダイ仕様ＥＳ５９００８をベースに米国／日本の意見を取り入れる形で国際版ドラフトを作成中である。

２．目的：　規格の目的はベアダイを調達する際にダイサプライヤーとダイユーザーの間でどのようなデーターをどのような形式で交換するかを示したもので、最低要求事項を定義している。

規格の構成は８つのパートに分かれており、パート１．(ﾍﾞｱﾀﾞｲ)調達と使用のための必要条件、２．取り交わしのデーター形式、３．(半導体チップの)取扱い／包装／保存の上手な実践のための推奨条件、４．ベアダ使用者と供給者の(間の)質問調査表、５／６．電気的／熱的シミュレーションに関しての(入力)情報の必要条件、７．ﾃﾞｰﾀｰ交換の XML-schema、８．ﾃﾞｰﾀｰ交換の Express-schema で構成されている。

３．今回の議題：

①パート１の改訂作業。②パート７の英国コメントに対するチーム回答の作成。③前回から新規に作業をスタートさせたパート８のチームドラフトの完成。④パート２と３の改定作業は今回ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄｵｰﾅｰが欠席したため議論しなかった。４．成果：パート８（Express model schema）は、今回の会議で審議をし尽くし、文章作成の作業を最後まで行い、チームドラフトとして完成までこぎつけた。そして即日、ＤＴＲとして J.Walbert 氏より IEC シンガポールへパート８を送付した。これにより、この PT で審議していたすべてのパートが、Circulation から Publication にあがったことになり、PT の仕事としては一段落ついた。(part8 は ISO-10303-21(1994)Industrial Automation にあるﾌｧｲﾙﾌｫｰﾏｯﾄに従って作られている。)　。パート７の英国コメントへの回答については、Annex を大きく Normative（基準となるもの）と、Informative（情報的なもの）に定義しなおした。パート１については、最近作られたパートである４～８と比較した上で、要求事項の「項」につきラインの数字を合わせ込み６２２５８全体を一貫して見やすいものに変えた。また、追加したものは、Sigulated die/Wafer Singulated など、最近の用語を取り込んだ。また、ディメンジョン記載についても SI 単位系（メーター）とし、インチは禁止。あと、パート４などにみられる情報集を表現するのにデーターパッケージという言葉で表し供給すべしとした。（パート１の発行済現行版 Rev.　k に対して、今回の改訂版は Rev.　m）

５．問題点その他：　問題点は無し。但し今回は、年明けすぐに行ったためか参加人数が少なかった。その分、２つのパートを集中的に議論し、予想以上に時間はかかったが、文章完成までこぎつけた。英語表現議論にも十分参加できた。

６．次回の予定：２００７年６月×日　イギリス（ポーツマスかロンドン。会場費用により選択。）

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。　(TSC-06 様式 2006.3)

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：160-3/SC62A-①（事務局記入）
IEC 活動推進委員会　御中　　提出日：2007 年 1 月 10 日

（報告者記載）整理番号：H18SC62A②

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：市川義人　報告書作成者氏名：市川義人（会社名）オリンパス（株）

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62A/WG20（半角）
SC62A/WG20	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	環境保護
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開催期日	2006年 12 月 12 日 ～ 2006年 12 月 14 日		
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）エアランゲン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Dr. Freimut Schroder	幹事国　ドイツ	
参加国及び参加人数	5ヶ国、主な国名 米、独、英、日本、参加人数（5）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 市川義人(ｵﾘﾝﾊﾟｽ(株))		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1. 背景

IEC 60601-1第3版が2005年に発行された（まだ強制ではない）。この規格に適合するには副通則、個別規格にも適合しなければならない事が新しく盛り込まれた。IEC 60601-1-9は当初この親規格の一部であったが、開発日程が遅れたため、親規格と独立して副通則にすることになった。この規格の目的は、各国でRohs等のさまざまな規制が開始される中、医療機器には本規格を適用し、大きく規制に影響されることなく、且つ医療電気機器の環境保護のプロセスを規定し、サービス、リペア、廃棄等の段階でも安全を確保する事にある。当初の開発日程から遅れているが、2008年5月までにはIS（国際規格として発行）する事を狙っている。

2. 成果

・51項目の各国からのコメントの審議を行った。21項目は拒絶された。日本コメント13項の内マイナーな2件のみ拒絶されたがその他はすべて受け入れられた。

・ISO 14971リスクマネージメントの観点から環境への影響は環境へのリスク、環境様相は環境へのハザード、環境へのインパクトはハームとすべきとの意見には、リスクマネージメントでは受容可能なリスクに低減するという考えであり、環境保護では環境への影響が受容可能かどうかの判断ができるわけではなく、目標値を設定し努力する枠組みであり、却下された受容の判断基準など作れないため。

・定義用語LIFE-CYCLEがISO側で定義しているものと異なる。ハイフンありと無しがある。これは統一する。

・REUSEの意味が一般にはディスポとリユースと対をなす意味で使われている。この規格では一部材料の再利用と、医療機器を異なる目的で使用した場合もリユースとなっており混乱しそうだが、用語で定義してあるのでそのままとした。

・最後に全文書を再度読み直し英文ミスの確認を行い。最終日SC62AのセクレタリーにFDIS案として提出完了した。

3.今後の予定

・FDIS　2008年1月発行

・各国投票期限　2008年3月

・IS化作業　2008年5月

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（(三井住友海上別館ビル)　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：　160-3/SC62D-①　　（事務局記入）
IEC 活動推進委員会　御中

提出日：2006年 12月 13日

（報告者記載）整理番号：H18SC62D⑭

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：内藤正章　報告書作成者氏名：片山國正　（会社名）テルモ㈱

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62D/JWG８ (半角)
SC62D/ JWG8	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☒その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	体温計
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開催期日	2006年 11月 8日 ～ 2006年 11月 11日		
開催場所	（国名）キプロス共和国	（都市名）Limassol	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Jurgen Hartman・Ambler Thompson/K.Wenzelewski	幹事国　ドイツ・アメリカ	
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 独、米、日本, スロベニア、参加人数（11）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ 池田誠･○片山國正(テルモ㈱)、石井順太郎･池上裕雄(産業総合技術研究所)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

１．背景：　手術室では体温を含む生体情報をモニタリングすることから、人工呼吸器・麻酔器の国際規格を担当しているISO/TC121/SC3のアクションによりIEC/TC/SC62Dとジョイントで体温計の規格化が開始され、第１回ベルリン会議、第２回Gaithersburg会議に続いて第３回が開催された。

２．目的：　N18(ISO/WD 80100.2)文書に対する各国コメント集N20を審議し、WDの修正を行う。

３．結果：　213のコメントの約１／４が日本の意見で、その多くは取り入れられたが、日本の考え方が幾つか否定された。年内にはＣＤ文書発行予定とのことであった。以下に主な審議内容を記す。

１）IEC 60601-1-11 家庭用医療機器安全規格を作成することが決まったが、ドラフトでは使用環境温度範囲として－５～４０℃が規定されており、今後の規格作りの上で考慮する必要があるのではないかと日本からコメントを出したが明確な回答は得られなかった。

２）Annex Aについては、体温計の分類に関する表についての日本の代替案が規格本文により即したものであるとの主張を切っ掛けに、現在のAnnex A(案)が規格本文の理解を助けるための補足説明とはなっていないとの結論となり、全面削除した。その後、規格本文に即して新Annex Aの項立てを決め、そこに現在のAnnex A(案)から利用できる内容を切り出して移し、全体構成が適切であるかの検討を行った。

３）侵襲的体温計、非侵襲的／低侵襲的体温計と言う分類について、口中検温用の体温計が侵襲的であると言う考えに異議を唱えたが、米国では口中検温用体温計は侵襲的に分類されているとのことで、日本の意見は否定された。

４）有熱の定義について議論があり、臨床的信頼性評価時に38℃以上の乳幼児を確保することが難しいことから37.5℃以上を対象とすることを日本は主張したが、米国から小児の有熱に関するFDAの勧告が示され、日本意見は否定された。また乳幼児について３ヶ月以下と３ヶ月～１年の分類が設けられた。

５）スワンガンツカテーテルやフォーリーカテーテルなど本来体温測定を主目的としていないもので、使い捨てカテーテルの場合には本規格を満たさないものがあるので、それは本規格の対象外とすることが明記された。

次回会議は、2007年４月２日～４日フランクフルトに決定した。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］にTC/SC/TA担当委員経由で、IEC活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 様式 2006.3)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：160-3／TC80-①（事務局記入）

提出日: 2007年 2月 2日

（報告者記載）整理番号：H18TC80 予算無

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：　矢内　崇雅　　報告書作成者氏名：　小松　裕昭　（会社名）古野電気株式会社

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC80/WG1 (半角)
TC80/WG1	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	レーダ・プロッティング装置
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開　催　期　日	2007年 1月 22日 ～ 2007年 1月 24日		
開　催　場　所	（国名）英国	（都市名）ロンドン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr. David Hannah	幹事国　英国	
参　加　国及び 参　加　人　数	8ヶ国、主な国名 英国、ノルウェー、ドイツ、スウェーデン、米国、カナダ、日本、参加人数（19）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 小松裕昭（古野電気株式会社）　○ 田北順二（日本無線株式会社）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1. 背景

IMO 性能基準決議 MSC.192(79)採択を受け、IEC 型式試験技術規格作成の必要性が発生した。

2. 目的

2003 年 8 月 8 日付け 80/377/RVN で承認された新プロジェクト IEC 62388（SOLAS 条約船用レーダ及びプロッティング装置）技術国際規格を 2008 年 7 月 1 日の MSC.192(79)の円滑な施行に間に合わせて作成。

3. 成果・問題点

※クラッタ存在下での探知性能予測データがカナダメンバーから提出された。提出データでは、Georgia Institute of Technology のクラッタモデルをベースに、海面クラッタに K 分布を降雨クラッタにレイリー分布を採用し、Swerling 1 物標及び誤差警報率 10 の–4 乗と仮定して予測演算の結果、80/461/CDV の表 3 と表 4 が非常に楽観的であることを明らかにし、その結果レーダ装置の合否判定基準を見直すことになった。

※MSC 82 で Benchmark 物標発生シミュレータ開発への財政的支援が得られなかったのを受け、TC80 チェアマン Mr. Andy Norris が、種々の環境条件下に於ける物標探知能力の裏付け資料として、型式承認試験を申請する際に製造業者が提出する海上実験結果を型検当局が分析・利用すると同時に、当局は海況 2～5 に於ける、とりわけ海況 3 以上での試験を行うことを提案し、概ね了承された。

※AIS 通報物標の処理能力の 95%に達した時に警告を与えるのは活性物標に対してのみとし、休眠物標については煩雑さを避ける為に対象とすべきでないとのコメントがあった。(WG13 IEC 62288 との調整が必要)

※欧州数ヶ国の National Safety Agencies 要求で無線周波放射レベル 100 及び 10 W/m2 に 50 W/m2 の測定を追加。

※Benchmark 物標シミュレータでの測定の代替測定方法にノルウェー及びスウェーデンの代表者が異議を唱え、レーダ探知性能向上を阻害するのではとの危惧を表明した。

※2001 年 80/323/RVN より TC80/WG13 で作成中のレーダ画面に表示のシンボル、略語、色等を拘束する IEC62288 が期限超過で没扱いとなり、今後の取扱で IEC 62388 に深刻な影響を及ぼすとの懸念が浮き彫りにされた。

4. 今後の予定

80/461/CDV 投票締切 2007 年 4 月 13 日の後、5 月 14～15 日ロンドン BSI にて Resolution Meeting を開催し、両日で完了できなかった場合には、5 月 22～23 日オスローDNV で開催される TC80 Plenary Meeting 後に継続開催を予定。それ迄に各国からのコメントを WG1 メンバーに回章し、Resolution Meeting の前に検討する。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：　160-3/TC80-②　（事務局記入）
IEC 活動推進委員会　御中

提出日: 2007年 2月 14日

（報告者記載）整理番号：H18TC80⑤

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：　矢内　崇雅　　報告書作成者氏名：　田北　順二　（会社名）日本無線株式会社

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC80 (半角)
TC80/WG6	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	デジタルインタフェース
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催　□同時開催	
開　催　期　日	2007年 2月 6日 ～ 2007年 2月 8日		
開　催　場　所	（国名）英国	（都市名）ロンドン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Stefan Steiner	幹事国　スウェーデン	
参　加　国及び 参　加　人　数	6ヶ国、主な国名 米国、英国、カナダ、ドイツ、スウェーデン、日本、参加人数（9）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○田北 順二（日本無線）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．背景　　船舶搭載機器のデジタルインタフェースに関する規格作成委員会である。

2．目的

舶用機器間のデジタルインタフェースを検討、審議する。WG１４より緊急に審議およびＰＡＳ発行依頼のあったＡＩＳ基地局用のインタフェース(PAS 103)について審議する。

3．成果

1）IEC 61162-1 Ed3 の FDIS が各国に投票のために回章されているが、投票締め切り前のため、特に審議は行われなかったが、TC80 Secretary の Kim Fisher より、IEC 中央事務局の指示により、FDIS のコメントは直接各国の委員会から TC80 Secretary に送付するようにとの注意があった。WG4A で審議予定の IEC 61108-3 ガリレオ受信機用のセンテンスについての審議をする予定であったが、WG4A 責任者が出席しなかったため、ガリレオ受信機用の規格の内容をレビューするにとどめ、次回の会議時に審議が延期されたが、ほとんどのセンテンスは、IEC 61108-1 GPS と同じものが使用できるのではないかとのコメントがあった。

2）IEC 61162-2 については、特に審議事項なし。

3）IEC 61162-3 については NMEA で NMEA2000 規格内容の見直しが続いているが、2 月の MNEA2000 の会議で審議がほぼ、終了しており、3 月に CDV 案が完成することになった。

4）IEC 61162-4 については、特に審議事項なし。

5）WG14 から提案のあった地上局用 AIS IEC 62320-1 用のインタフェースについて審議したが、この規格の中で、地上局間の IEC 61162-1 データ転送をイーサーネットを用いて効率的に行うために提案された TAG (Transport, Annotate, and Group) Block の内容について審議した。この PAS103 は、2 月に開催される WG14 で更に内容を精査したうえで、3 月までに内容を詰めることになった。

6） 次回の WG6 会議は　2007 年 6 月 26 日～28 日にスウェーデンで開催されることになった。

[注]： 1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 様式 2006.3)

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：160/TC100/TA1-①（事務局記入）
IEC 活動推進委員会　御中　　提出日: 2007年 1月 30日

（報告者記載）整理番号：160/TC100/TA1-①

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：伊賀弘幸　報告書作成者氏名：伊賀弘幸　（会社名）東芝

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TA1 (半角)
PJ 会議(62487)	□TC □SC □TA □WG ☒PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称 (日本語)	放送用エンドユーザ機器
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2007年 1月 11日 ～ 2007年 1月 11日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）ラスベガス	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr. Jon Fairhurst	幹事国 日本	
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 JP(4), US(16), KR(1), AU(2)、参加人数（23）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○伊賀弘幸(東芝)、稲垣一彦(ソニー)、岩崎弘治(シャープ)、安藤亨(松下電産)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

TV の平均消費電力測定法 PJ(62487)に TS として参加した。この PJ の作業は既存の消費電力測定法(IEC 62087)の改定作業とすべきとの PJ の議論を踏まえて回付した 100/1179/DC に対して、特に反対のコメントが各 NC から無かったので、PT 62487 はキャンセルして、IEC 62087 の MCR を出すことになった。WD はテストループとその作成過程を説明する Informative Part を残してほぼ完成した。Informartive Part に回った Power Saving 機能を含めて JEITA 方式と整合がとれた。CD は 3 月下旬に回付予定。

Low APL と Mid APL のテストループには、分けて測定して加重平均しなければならないほどの差がなかったので、一つのテストループにまとめることにした。国や地域の事情は、テストループの測定結果に定数を乗じれば良いとし、その値は少なくとも本文には記載されない。

今後は、Test Loop(約 10 分)の中のコンテンツの種類を増やすこと、APL 分布データを増やすこと(日本・米国・欧州に加えて、豪州と韓国)、40H の実放送番組下での消費電力を測定すること、Test Loop での測定値とこの実放送下での測定値の相関を確認すること等を 2/E までに行う。

EPA に Test Loop を出すのは、3/7 を予定。尚、現在の EPA の予定では、3/30 に各社がテスト結果を報告、4/7 EPA Draft 1 配布、5/21 EPA Draft 2 配布、7/2 EPA Draft 3 配布、8/13 EPA Final Draft 配布、9/24 EPA Final Spec 配布、2008/1/1 より前に EPA は Test 方法と Test Clip を配布、2008/7/1 EPA Spec Effective。

尚、US の Expert は、Contents Release 許諾に関しては楽観的。EPA 等のサポートを期待か？

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

（社）電子情報技術産業協会　運営委員会・資料番号：　160-3／TC100-TA5-①　（事務局記入）　様式 4

IEC 活動推進委員会　御中

提出日：2007年 2月 9日

（報告者記載）整理番号：H18TC100TA5③

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：　濵田　靖司　　報告書作成者氏名：　松本　檀　（会社名）日本ケーブルラボ

出席会議名（半角） MT60728-13	区　分 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☒PT ☐その他	組織番号（TC/SC/TA）	TC100/TA5（半角）
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称（日本語）	ケーブルネットワーク
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開　催　期　日	2007年 1月 22日 ～ 2007年 1月 23日		
開　催　場　所	（国名）ドイツ	（都市名）フランクフルト	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	松本　檀	幹事国　日本	
参　加　国及び 参　加　人　数	5ヶ国、主な国名 ドイツ、イタリア、イギリス、フィンランド、日本、参加人数（9）		
日　本　人 出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○ 松本檀（日本ケーブルサポ）　○松本卓三（古河電気工業株式会社）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

PT 60728-13 コンベナとして放送信号伝送用 FTTH システムおよび FTTH システム測定法の標準化のため、キックオフを兼ねて第 1 回会議をフランクフルトの DKE (DKE Deutsche Kommission Elektrotechnik Elektronik Informationstechnik)で開催した。昨年のベルリン会合結果、各国 NC のコメント及びその後の国内審議を反映した２文書を提出し、内容の詳細検討を開始した。

提出文書は役務利用放送を念頭においた放送用 FTTH システムであるが、各国の国情を踏まえた記述を追加することや、既存の Part 6（光機器）との記述の整合、システム記述と測定法の一本化等が審議された。

初回としては実のある会議が出来たと思われる。

CENELEC ともリエゾンしながら国際標準として中身を充実させていくため、今後メールまたは電話会議を進めることとし、今年 6 月頃に日本で第 2 回会合が開催可能か打診しておいた。

参加者の反応はおおむね良好であり、条件が整えば東京で開催することとしたい。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（(三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 様式 2006.3)

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：160-3/TC110－①（事務局記入）　　様式 4

IEC 活動推進委員会　御中　　提出日: 2007年 2月 6日

（報告者記載）整理番号：H18TC110④

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：森本光孝　報告書作成者氏名：田中宏典　（会社名）松下電器産業

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC110 (半角)
TC110	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
WG2	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲﾃﾞﾊﾞｲｽ
WG4	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
WG5	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2006年 12月 3日 ～ 2006年 12月 5日		
開催場所	（国名）日本	（都市名）大津	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	御子柴(電通大)	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 日、韓、米、中、蘭、フィンランド、参加人数（45）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ 御子柴(電通大)、岩間(元日本 IBM)、田中（松下電器）、石黒（シャープ）、篠田（富士通）、森本（日本電気）、打土井（パイオニア）、柴田（三洋電機）、安藤（松下電器）、田辺（パイオニア）、浅井（ソニー）、池田（エスペック）、加藤（シャープ）、鳴滝（シャープ）、中村（三洋エプソン）、依田（大塚電子）、芝原（富士フイルム）、岡村（コーニングジャパン）、寒川(チノー)、佐野（専修大）、後藤（JEITA）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1. TC110

TC110 の第 4 回会議は、滋賀県の大津プリンスホテルにおいて、傘下の 3WG 会議と同時に IDW（国際ディスプレイワークショップ）2006 の直前に開催された。TC 昇格直後の 2003 年福岡キックオフ会議とほぼ同数の 50 名近い参加者があり盛況。WG2(LCD)、WG4(PDP)、WG5(OLED) 各 WG の昨秋デルフト会議以降の進捗状況報告があり、日程計画の見直しも含め、いずれも承認された。TC100 との JWG(PT62487)「FPD テレビ受信機の消費電力測定方法」審議の進捗状況報告あり。また、デルフトでのドイツ提案「各表示デバイス間のハーモナイゼーション」の具体的内容の紹介があった。他の様々な国際標準化機関との協調活動までが盛り込まれ、「TC110 内での協調」との当初の認識からずれることには反対意見が多数。更に、「フレキシブルディスプレイ」に関するグループ設置の提案が韓国委員からあった。技術的に未成熟かつ多様で、未だ整理されてない状況との認識から、準備段階として提案を待つこととした。次回の開催候補は、2007 年 9 月の北京か、あるいは 8 月のシンガポールで検討する。

2.1 WG2（LCD）

LCD グループは、61747 シリーズの Part 5-2「反射型モジュールの測定法」、Part 5-3「AM モジュールの外観検査」、Part 5-4「AM モジュールの動画ボヤケ測定法」に、新たに Part 5-6「ガラス強度・信頼性の測定法」を加えたプロジェクト審議が進展、いずれも 1～3 ヶ月以内に次のステップに進めることとなった。MC2 件も IS 化完了を確認。

2.2 WG4（PDP）

PDP グループは、61988 シリーズの Part 3-1 と 3-2 の「品質関連の測定法」2 件、Part 2-2「電気的インタフェース」、Part 5「環境試験」、Part 1「一般仕様」の各プロジェクト審議が進展した。MC に入る光学的と電気光学的「測定法」2 件については合体案原稿を確認した。いずれも次のステップに進む。

2.3 WG5（OLED）

WG に昇格した OLED グループは、62341 シリーズとして最初の FDIS 化が 2007 年春に予定されている Part 2「用語定義」をはじめ、Part 1「一般仕様」、Part 5「環境試験法」、Part 3「表示品質測定法」のプロジェクト審議が進展した。

3. その他

一部プロジェクトリーダの欠席、あるいは任半ばでの交代などあり、活動の継続性維持に課題。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。